

Tokai Fubokon Letter

第2回 幹事会(9/3)

9/3(土)に、今年度第2回目の父母懇幹事会が開催されました。当日は約80名の地域幹事の皆さまをお迎えし、「バスハイク in 中津川」のご案内と、2本の講演をお届けしました。最初に、宮川学先生(高校数学科)から「この秋、皆さまにお願いしたいこと~東海の教育を支えている助成金~」と題して、東海中高の多彩な教育活動が私学助成によってどのように支えられているかについて丁寧に説明がありました。続いて、久田光政先生(高校国語科)からは、「カヅラカタ歌劇団の軌跡」と題して、その誕生と成長に父母懇がどのように貢献してきたかを熱く語っていただきました。以下に、宮川先生の私学助成講演の一部をお届けします。

【春の地域懇開催への感謝】



宮川学 先生

まず、春の新生地域懇を開催していただき、ありがとうございます。コロナで悩まれた期間でしたが、父母懇も「止まっているのか」と考え、やはりやり続けなければということで、皆さんに工夫をして開催していただきました。東海父母懇の「毛細血管」

である地域懇は、愛知私学だけでなく、全国を見ても稀有な取り組みで、それが良い学園づくりに直結しています。こちらから情報発信もできるし、皆さまの要望も聞ける貴重な機会です。

東海で地域懇ができるのは、皆さんの献身的な支えがあってこそ。発足以来、これがずっと続いているところが、東海らしさにつながっていると思います。

【経常費助成に支えられる私立学校】

サタプロやカヅラカタ、各種オリンピックの入賞など、東海らしい多彩な教育活動ができてるのは、豊

かな財源があってこそです。その前提となるのが「経常費助成」の存在。私学にはこういう助成があることをぜひ知っていただきたいと思います。

「経常費助成」は、学校に直接助成される収入源で、学校会計の約45%を占めています。現在生徒ひとりあたりの経常費助成額は、高校で約35万円、中学で約32.5万円です。その1.2%から1.4%、つまり4,500円程度毎年上がっています。これと歩調を合わせて、愛知県も上昇してくればよいのですが、状況によってそうはならないこともあります。現在は安定期で、2015年から8年連続国基準単価を維持していますが、もしこれが崩れると由々しき事態に陥ってしまいます。今の環境は、皆さまのご息が入学される5年前、10年前の方々に同じように説明し、署名やオータムフェスティバルにご協力いただいた賜物ということを知っていただきたいと思います。

【授業料・入学金助成拡充の歴史的成果】

「授業料助成」(各家庭に直接支給される補助金)に関しても、すごくドラマチックな展開があります。過去には授業料が最大で33倍の「公私格差」が生まれていました。経済的に大変な生徒たちの教育機会をなんとか確保しようと動き出し、少しずつ少しずつ積み重ねて、公私の差が少なくなってきました。

甲ランク(年収720万円までの世帯)がまず無償になり、乙ランク(年収720万~840万までの世帯)の助成金が1/2に拡大し、入学金についても改善され、どんどん手厚くなっていきました。ただ、愛知県の独自の財源がなくなるというときに、「請願署名」のおかげで、国が世帯年収590万未満までの無償化政策を打ち出しました。

これまで助成金運動に関わってきた数多くの人たちの努力が実を結び、2020年に世帯年収720万までのところまで授業料・入学金が実質無償化になっ

たことは、愛知父母懇の方たちにとって、悲願の歴史的な大成果で、喜びを分かち合いました。このように、助成金運動は、東海だけでなく、愛知私学の多くの学校が力を合わせてここまで持ってきたものということを強調しておきたいと思えます。

【秋の私学助成拡充運動へのご協力をお願い】



昨年度の東オータムフェスティバル

この秋に皆さまにお願いしたいことが3つあります。まず「請願署名」へのご協力をぜひよろしくお願ひします。次に「オータムフェスティバル」です。オータムフェスは、各地域選出の県会・市議員をお招きして、私学助成拡充を訴えることが目的です。今年は、乙ランク(年収720万~840万まで世帯)のご家庭に、①1/2ではなく2/3まで助成を拡充する、あるいは②1/2のラインを840万から910万に引き上げるといった「乙ランクの拡充」を目指しています。こうした社会的意義に加えて、部活動のステージ発表など、高校生たちが躍動する姿が見られます。なかでも 東海のオーケストラ部が式典で演奏すると、ほんとうに格式高い素敵なものになります。お近くのオータムフェス会場、そして11/13(日)に東海中高で開催される東・オータムフェスに、ぜひ足を運んでいただければ幸いです。

最後は、11/6(日)に開催される「BIGフェスティバル」。名古屋港ガーデン埠頭東広場及び中央広場公園で、大勢の高校生が輝く姿が見られます。この運営協力券も、署名用紙の封筒に入れてお届けしますので、ご購入をお願いできれば幸いです。

今ある東海の豊かな教育や環境を支えているもの



昨年度のBIGフェスティバル

のひとつが助成金で、その拡充の方法として「署名」や「オータムフェスティバル」があります。

長年大勢の皆さまのご協力がひとつの力に結集し、東海は大きな力として、他私学からの期待に応えてきました。とにかく父母の皆さまのご協力があつてこそ。それが東海の教育環境の向上に直結するので、この秋、オータムフェス会場で皆さまにお会いしてご挨拶できればと思っています。

バスハイク in 中津川



照寿庵のお庭の前にて

10/2(日)に第2回文化講座「バスハイク in 中津川」を開催致しました。コロナ禍で見送られていたバスハイクが3年ぶりに復活! 秋の味覚、“栗”を満喫していただくコースをご用意しました。未だ終息しないコロナ。開催できるのだろうか? 不安と期待のなかで準備を進めてまいりました。開催10日前、中津川の週間天気予報は雨マーク…。まるで遠足を楽しみにしている小学生に戻ったように、てるてる坊主を作り、晴れることをお願ひしました。



栗きんとん絞り

当日、気持ちのいい晴天に自然と笑みがこぼれました。バスは名古屋駅を出発し中津川へ。ちこり村では、栗きんとん絞り体験をしました。絞り方のポイントを丁寧に教えていただき、自分だけの栗きんとんを作りました。その後日本の伝統的な建築様式の数寄屋造りの照寿庵で、日本庭園を眺

めながら山菜栗おこわに舌鼓を打ち、心もお腹も満たされました。中津川マロンパークでは22種類のつやつやした大きくて美しい栗がお出迎え。栗の王様とも言われている利平栗の美しさに驚きました。最後に行った苗木城の石垣には、全国でも珍しいと言われる自然の巨岩がそのまま利用されています。年代によって積み方も異なる石垣も見どころの一つですが、何と言っても恵那山、木曾川も見渡せる絶景に心地よい風。はるか遠い昔にタイムスリップ。そんな時間を味わって

いただけたのではないのでしょうか。「絶景！山城部門」第1位に選ばれた苗木城跡の絶景は、とても素晴らしかったです。



苗木城跡にて

今回バスハイクを開催できたこと、多くの皆さまに参加していただけたこと、心より感謝申し上げます。また皆さまにお会いできるのを楽しみにしております！

【参加者の感想】

- ・バスハイクでは大変お世話になりました。初参加で緊張しておりましたが、学芸部や役員の方々の細やかなお気遣いと、先生方が気さくに話しかけて下さり最後の最後まで楽しく過ごす事ができました。また、普段なかなか関わりの無い他学年のお母様方にもお話を伺う事ができてためになりました。苗木城跡の観光ではグループ毎にガイドさんをつけていただいたおかげでよく聞こえたので、お城に興味のなかった私ですが、またお城巡りもいいなと感じました。個人旅行ではあれだけ無駄がなく丁度良い時間配分で行くのは難しいですので、参加出来て大満足でした。また、機会があれば参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。
- ・初めて参加させていただきました。ツアーの内容が充実していたことはもちろんですが、先生や他学年のお母様方と交流する機会はとても新鮮で貴重な時間で、とても楽しかったです♪ 企画、準備、運営

にご尽力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました☆

- ・これまで色々ご準備があり大変でしたでしょうに、細やかなお気遣い、段取り良くテキパキ動いてくださいましたみなさまの手厚いおもてなしのおかげで、とても楽しい一日となりました。中でも、手書きのしおりにとっても感動しました。読みやすい文字だけでも綺麗！と釘付けになりましたが、かわいいイラストもあり、今は何でもパソコンなのに、温かかったです。昼食後の名札やみなさまがつけていらした缶バッジやうちわ等、手作りって素晴らしい！！
- ・盛りだくさんでどれを取っても楽しかったです。案内・しおりに手が込んでいて見て楽しむこともできました。企画された方は大変だったと思います。来年も参加したいと思いますが、今年みたいに激戦だったら参加できないかと危惧しています。お土産の栗きんとん食パンは家族に好評でした。

シリーズ「知りたい！隣の地域懇」

東濃 秋の地域懇<10/8>

10/8(土)中学学習室にて、東濃地区の秋の地域懇が開催されました。当日は、地域担当の高山啓先生(中学国



岡村先生

語科)、岡村一男先生(中学数学科)、ゲストに太田正和先生(高校情報科)、OB2名をお迎えし、計16名で開催しました。

高山先生からは、中学と高校の生徒の行動の違いや、山本五十六の教育論を例に挙げ、ルールは親、子ども相互に承認し合うことが必要、また、やっている姿を感謝の気持ちで見守ることが、難しいことではあるが大切とお話を、スライドを見ながらお話しされました。

岡村先生からは、3年ぶりに対面開催できた記念祭を通じ、行事の大切さ、行事によって子どもたちが成長していくというお話でした。しかし、OBの方の時は目の輝きが違うとのこと。それは上の学年からの蓄えがないから。タテのつながりが人を成長させる。



OBの方との懇談

タイミングに合った行事の大切さを考えさせられるお話でした。

太田先生からは、2025年から共通テストに追加

される情報科についてや、情報科の授業の内容についてお話していただきました。また、教育の拡充のための助成金の必要性、署名活動とオータムフェスティバルの重要性についても熱く語っていただきました。

OBのお2人は吹奏楽部で活動され、先輩から受け継ぐことの重要性、また現在部活動をされている生徒さんには、ぜひとも引退まで活動を大切にしてもらいたいということや、6年間で得た仲間とのご縁や関係性をお話していただきました。

休憩を挟んでの分科会では、2グループに分かれ、先生方やOBの方に直接質問をし、親目線と子ども目線の違いや、親子の関わり方がどうだったか等をお聞きました。親は子どもを守るべき存在と思っているが、子どもはそうではないということ。(OBさんは思い上がり…とおっしゃっていました。)東海生は自律性がとても高いので、うまく転がさなくてはいけない。反面、受験期にはもろさが出てしまうことがある。しかし、そんな時でも過保護にならずに見守って欲しいとのこと。また岡村先生からは、つい口うるさくなってしまいがちだが、2回目までは我慢し、3回目ご注意ください、親の方から離れていくつもりで…との話は印象的でした。どの保護者も子どものためとってつい口を出してしまいがちですが、口を出さないことの難しさをあらためて考えさせられた気がします。

そして何よりも授業を大切にすることが一番と、OBの方、先生方ともにお話しされました。一日の中で通学時間等を利用するなど、少しでも勉強をする時間を持って欲しい。また親はいざという時に頼れる存在であってほしいとのお話は、実際に受験を経験されたリアルな言葉で心に響くものがありました。

東濃地区は他地区に比べエリアが広いので、保護者の方が顔を合わせる機会が少ないのですが、当日

は学年の垣根を越えていろいろなお話ができ、充実した時間が過ごせたのではと思います。コロナの終息が見えない中、感染に注意しながら開催の準備をしてくださいました幹事の皆さまや先生方、大変ありがとうございました。そしてお忙しい中、遠方より学校までお越しいただいた皆さま、ご参加ありがとうございました。

編集後記

幹事会で久田先生のお話を聞き、家庭では見られない、子どもたちの生き生きとした活動の様子を知ることができました。歴史あるカヅラカタが開催されるまでにはたくさんの人達のサポートがあり、先生方の見守る中で子どもたちが挑戦し、葛藤し、成長していく姿に胸が熱くなりました。多感な時期で、見ていてヒヤヒヤすることも多いですが、気付きを得られると信じて先生方と同じく見守りたいと思います。

～今年度限定!「広報部長のつぶやき」～

※T.F.Letter 本文内容とは関係ございません

秋といえば、さつまいも!
さつまいも最高!
最近は干し芋を家で作っているのですが、待つことができず、干して2日目ですべて食べてしまいます。4日目がおいしいとのことですが、待てない!
そもそも干す必要ないのかも?